

< 研究成果の紹介 >

透湿性マルチを利用した極早生ウンシュウの高品質果実生産

紀南かんきつセンター

1. 成果の内容

極早生ウンシュウは全国的に栽培面積が増加しており、より高品質な極早生ウンシュウでない市場における評価が得られない状況になって来ています。また、収穫労力の分散と、果実の高価格維持のために収穫時期の前進化技術が求められています。

そこで、極早生ウンシュウの「崎久保早生」で透湿性マルチを利用した栽培を行い、糖度の高い果実生産と収穫時期の前進化を目指しました。

土壌水分は蒸発させ、上からの雨水は通さない白色の透湿性資材を7月中旬に樹園地全面に被覆して土壌に雨水が入らないようにしました(写真)。8月中旬までかん水は行わず、その後点滴かん水チューブで4~5日間隔で10t/10aのかん水を行いました。糖度は被覆を開始してから上昇しはじめ、無処理に比べて1.6%高くなりました。

クエン酸濃度は、点滴でかん水するまではやや無処理より高目でしたが、かん水してからは無処理より低く推移しました(図)。

白色の資材であるため、地表面の光を乱反射し、果実の着色も促進します。9月30日で無処理に比べて

着色歩合で2.9分着色が早くなり6~7日早期収穫が可能となりました。

2. 技術の適用効果と適用範囲

県内の極早生ウンシュウ栽培農家に適用できません。糖度の高い果実生産を行う栽培方法として利用できます。また、着色促進による収穫時期の前進化技術としても利用できます。

さらに、チャノキイロアザミウマ、褐色腐敗病の防除にも効果が有り減農薬栽培が可能です。

3. 普及、利用上の留意点

被覆に当たっては、隣接園へ雨水が流入しないよう注意が必要です。また、夏季の天候により樹体の反応を見ながら適宜かん水を行う必要があります。

台風に備えて、しっかりとした押さえが必要です。

また、日中に被覆作業を行うのは太陽光の乱反射を受けますので暑くて大変です。作業は、曇天の日か朝夕の涼しい時間帯に行う方が楽です。

(市ノ木山 浩道)

極早生ウンシュウの透湿性マルチによる栽培状況

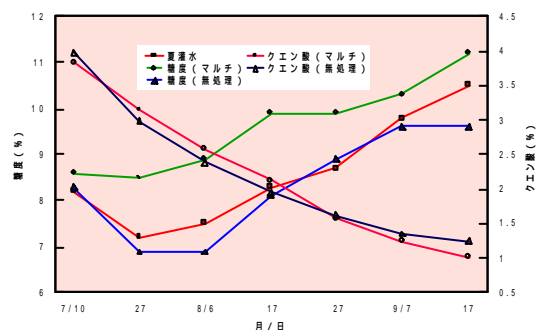


図 透湿性マルチによる極早生ウンシュウの果実品質の推移(H11)

